



祐介の目

No.148

大田祐介（福山市議会議員）

方針転換以来、県は本
当に良くやってくれ
たと感じている。安心
安全な住み良いまち
づくりが進む一方、鞆
の人口は毎年100
人減少している。現在
の鞆の主産業は観光
だが、住民には観光客

鞆のまちづくり

湯崎知事が埋立て架橋計画から山側トンネルに方針転換した際の説明会に私も参加したが、殺気立った会場に怒号が飛び交った。その後11年が経過し、当初の県と市と住民間の混乱も収まり、県は鞆未來トンネルに着工し、東西の交流拠点整備、新たな栈橋の設置、平漁港内の埋め立て、起伏式ゲートによる高潮対策等、様々な新たなまちづくりを進め、県事業費は190億円に上る。例えば東側交流拠点に車を停めて渡船に乗り、鞆港まで送るといふ船を使ったパーク・アンド・ライドは日本初ではないか。私もシーカヤックで何度も鞆港を出入りしたが、水面近くから観る鞆の街並みは素晴らしい。

私は鞆・高島・水呑学区に声をかけ「鞆の浦駅伝」を計10回開催して鞆周辺住民の融和を図ってきた。住民はもちろん、県、市からも毎回多くのチームが参加してくれた。

アレルギーがある。しかし、観光無くして雇用は生まれません、よそ者・若者・馬鹿者が鞆に来ることもないだろう。この解決策は石見銀山や白川郷等に学ぶべきだ。できれば観光客が落とした果実が観光業以外の住民に還流するような仕組み（観光税等）ができればと思う。

私は自ら修復した元遊廓・ありそ楼を拠点に「着物日和」というイベントを毎年開催してきた。大正ロマン風の着物を多数所有する尾道でござ座の協力により参加者に着物を選んでもらい、着付けをして町を散策してもらおう。鞆の住民からも観光客からも褒めてもらい、本人たちも大満足で一日を過ごすことができた。このような滞在型観光が定着して、鞆の街並みをゆっくり歩いて回るようになれば観光客アレルギーも随分減るのではないか。私は16年前に埋立て架橋計画に反対票を投じた。以来、鞆の住民の力になれればと努力してきたつもりだ。